

歳末のお尻のトラブル

トラブルの始まりは一二月一日の昼過ぎだった。下腹部が痛み出し、便が出にくくなり、嘔吐がはじまった。明日の一二月二日は、シルバー人材センター英会話サークルの英語の歌の特別研修として、甲山北側にある「かぶとやま荘」に行かねばならない。私がこの研修の「言い出しべえ」であり、阪神香櫨園、JRさくら夙川、阪急夙川経由の専用送迎バスを出してくれる最低人数一五名をやっと確保できたところだったから、なにがなんでも行かねばならない。

ところが、歩くことさえ出来なくなり、一晩中痛みが止まらない。とうとう二日当日は「かぶとやま荘」に行くどころか、這うようにして、近くの横山クリニックに行くのが、やっとだった。昨日から食べられないので、点滴を打ってもらい、胃腸の調子を整え、炎症を止め、痛みを和らげる薬をもらった。

やっと、お粥が少し食べられるようになった。英会話サークルの何人かには、前夜にメールを打っておいたので、私の欠席は通じていると思うが、メインの英語の歌のテーマであった Amazing Grace を私が録音しなおしたテープはどうとう渡せなかった。「すまん、すまん」と一人呟いた。

結局、痛みは少し治まったものの、食事をあまり食べられず、点滴を三回もすることになった。このままでは、点滴を打ちつつ、正月を迎えねばならない。

お尻とは関係ないと思ったが、九月に直腸脱の手術を受けた大阪北通信病院の斉藤先生に相談してみようと思った。一二月九日は、先生の診察予約をした人だけの日である。しかしこの日が一番近い。電話をしたが、予約をしてないと長い時間待つて頂くことになりまますよと、受付で言われた。覚悟をして三時間待つて、先生に会った。

先生は私の肛門を指で診断して、すぐに言った。「直腸の穴をすこし広げる手術をしましょう。そうすれば、その症状は楽になると思います。一二月二二日に入院して、二四日に手術、手術後三日で退院できます」私はそこまで考えていなかった。先生から直腸脱のことを知っている胃腸専門内科医を紹介してもらえば、良いと考えていた。しかし、直腸穴が狭いのが症状の原因とあれば、「お任せします」と言わざるを得ない。

クリスマスイブを迎えようとする二四日、九月の時と同じ手術室で、私はT字帯と手術着にお尻を出して、蛙のように手術台にへばりついていて、今回は斉藤先生以外の補助医師たちは、みんな若い女性だった。女医四名、看護師一名が、七七才の私のお尻を取り囲んだ。

例によって色々なモニターが付けられ、点滴の管が今回は左の手先に差し込まれた。腰椎麻酔が効いてきた頃、先生の「直腸狭窄」改善手術が始まった。今回は前回と違って三〇分であっさり終わった。

しかし、この手術後が大変である。病室のベッドに寝たまま、六時間は動かずに麻酔の解けてくるのを待たねばならない。その間、不思議に小便も出なかった。

(前回は二回、管で小便を取ってもらっていた)そして六時間後歩いてトイレに行けた。その日の夕食も全部食べる事ができた。

手術後二七日まで入院した。便が確かに良く出るようになって、下腹の痛みはなくなり食事も普通に出来るようになった。なんとか正月の料理は食べられそうである。

しかし、お尻の穴の巾の大きさに私の歳末お尻トラブルの原因があると思っても見なかった。人間の身体はよく出来たもので、それぞれ自然に、お尻の穴の巾まで、一番適正な大きさになっている。ところが私の場合は九月の直腸脱の手術で、縫いぢぢめられた結果やや狭くなっていたらしい。お尻とは実に微妙な器官である。来年からはこの微妙な器官と上手く付き合いながら、残りの人生の日々を元気に過ごして行こうと、心から思った。

宙 平

Cosmic Harmony